

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



南風

第 10 号

令和 4 年 12 月 1 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

給食に関わっての「探究的な学び」

校長 吉原 誠 士

本校に牛乳を納入している業者さんが校長室を訪れました。2名の3年生が現在使っているプラスチックストローについて疑問を持ち、ストローを使わずに済む牛乳パックやファストフード店で流通する紙ストローへの変更について直接メーカーに案を出したのです。会社はこの問いかけに即座に反応し、3名の担当の方々が、対面で中学生からの量みかけるような問いかけに回答くださいました。その一端を紹介すると「ガラスビンのリユースは重量増加に伴って輸送時の環境負荷が増大してしまう」、「紙ストローの耐久性だけでなく、触感や温度の伝わり方といった微妙な感覚に関わる研究もしている」、「プラスチック製のストローを生産する会社もあり、従業員の雇用面も考えて話を進めている」など。会社の方からは、地球規模の諸問題に多角的な視点から迫りながら、今回の提案も活かしてパックの形状やストローの材質等について検討と開発を続けることが語られ、笑顔で話を終えました。

教育界では「探究的な学び」という用語が飛び交うようになっています。特に高等学校には「総合的な探究の時間」が設けられ、「古典探究」「地理探究」「世界史探究」「理数探究」といった選択科目が加わりました。小・中学校でも主流になろうとしている「探究」は、課題を解決するために必要な情報を集めたり、それらを元に思考したり、プレゼンテーションや文書等で表現したりすることが中心となります。授業でも収集したデータを整理・分析したり、周囲の人と協働的に意見交換や相互評価をしたりして学習活動を進めます。その際、GIGAスクール構想によって支給された端末が大活躍します。

今回、子どもたちはアクセスを試みる時に、国内外で流通する他社商品の情報を集め、プラスチックを使い続けることによる二酸化炭素の排出量までも計算、比較して変更の利点を述べていました。単純に疑問をぶつけるのではなく、自分たちの考えをはっきりと表明していたのです。これは現在求められている「探究的な学び」の最良のモデルです。実は「自分たちが暮らす社会とつながりながら、仲間と協力して新しい価値を創造する力を育成する」「中学生と企業が共に未来を探究する」探究学習のプログラムが半年前から“市の主導”で始まっています。ほとんど同じ発想でありながら、全く別に“個人が自ら”実行に移した点でも大きな価値があるのです。さらには、これを正面から受け止めてくださった牛乳生産会社の存在は大きく、先進的な発想とその心意気にも感じるものがあります。

「給食で出される牛乳が一番美味しい」という声は本校でも聞かれます。シーズンを通じて食の安全にこだわる企業の姿勢に頭が下がります。昨日は来校した皆さんと一緒に校内を回り、本校生徒が“美味しく”牛乳を飲む姿を参観いただきました。校長室では与野南中学校名物「最高の給食」を食していただき、高い評価をいただきました。こちらは栄養士と調理場による日頃の「探究」の成果です。すでにPTA主催による給食試食会は好評のうちに終わりましたが、地域の方々に提供する機会を設けたいとも思っています。その場で参会者と関係者による「牛乳談義」が行えても面白いかもしれませんね。

わたぼく牛乳 でおなじみの 森乳業株式会社 大村 様 田島 様 矢野間 様

この度はご多用中にもかかわらず二度に渡ってお話をいただきありがとうございます。また、今後の本校教育活動にも参考となる貴重な機会でもありました。重ねてお礼申し上げます。

3年生の 原 さん 長谷川 さん

提案内容を聞いてその発想と探究的な展開に拍手を送ります。また今回の“実行力”には驚き、感動しています。今後もこの勇気ある行動に期待し、活躍を楽しみにしています。

12月1日発行の第10号において、3年生の名前が間違っていました。
 長谷川さん、頑張ってくれたのにごめんなさい。ホームページ版では訂正して掲載します。

《 ここから下の記事は紙媒体で配付した版には含まれていません 》



▲ 11月30日に行われた第2回の様子



「わたぼく」の正式なロゴが
 「WATABOKU」と書かれる
 ことも初めて教えていただき
 ました。



話題になった牛乳パックとプラスチックストロー ▲

▼ おいしいと話題の牛乳 ～ 広告欄は実はクイズなんです



↑ 11月

12月 ↓

